

経済レポート

2016(平成28)年度 新入社員意識調査アンケート結果【大阪版】

～安定志向の男性社員、現実的な女性社員。理想の上司は圧倒的に「いぬ」～

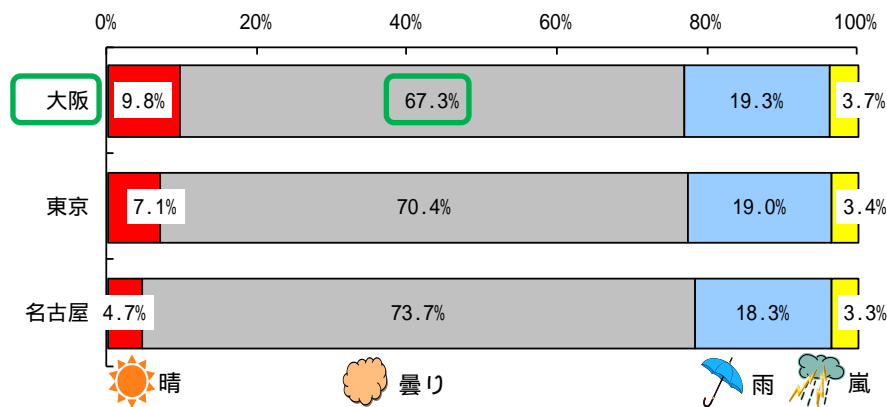
調査部 研究員 藤田 隼平

日本の現状に対する見方は二極化

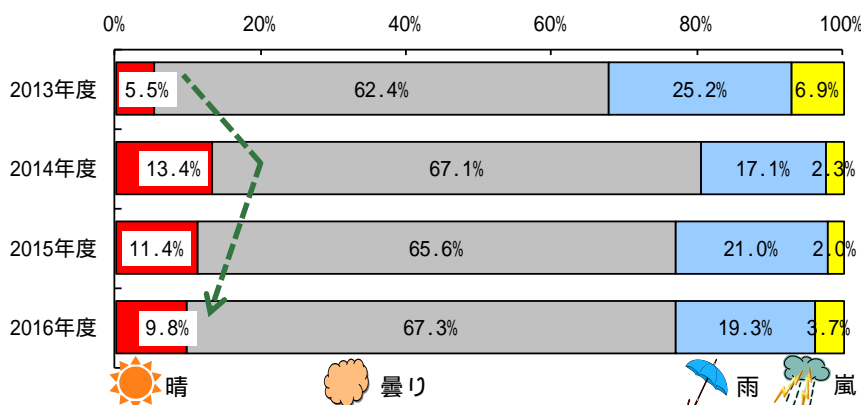
今の日本の状態をどう思うか新入社員に天気(晴、曇り、雨、嵐)で表してもらったところ、最も多く選ばれたのは「曇り」(67.3%)であった(図表1)。一方、「晴」と答えた人の割合は9.8%と1割程度にとどまったが、東京(7.1%)や名古屋(4.7%)と比べると多かった。しかし、「雨」(19.3%)や「嵐」(3.7%)との回答割合も東京や名古屋より多く、日本の現状に対する見方は二極化している。

さらに、2013年度以降の推移を見ると、「晴」と答えた人の割合は2014年度をピークに低下傾向にある(図表2)。また、「雨」の回答割合が前年より低下したものの、「嵐」の割合は上昇しており、新入社員の心理は他地域と比べると安定してはいるものの、どちらかといえば悪化していると考えられる。

図表1.今の日本の状態を天気で表すと?



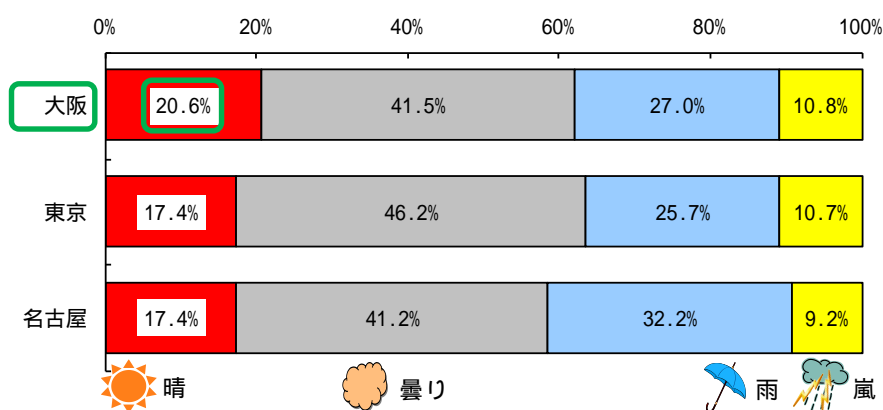
図表2.今の日本の状態を天気で表すと?(大阪地区推移)



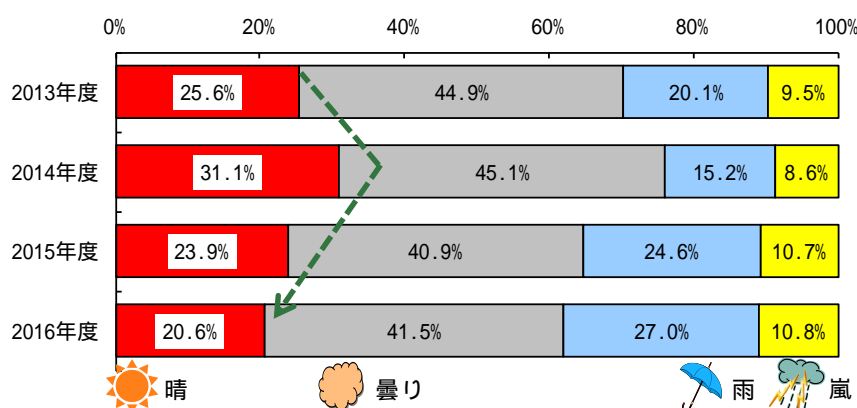
また、10年後の日本の状態についても尋ねたところ、引き続き「曇り」(41.5%)と答えた人が最も多かったものの、半数以下まで減少している(図表3)。一方、「晴」(20.6%)と答えた人の割合は2割強にまで高まっているが、「雨」(27.0%)や「嵐」(10.8%)との回答も増えている。「雨」の回答割合は名古屋の方が高いものの、「嵐」は引き続き大阪が最も多く、日本の先行きに対する見方は依然として分かれている。

もっとも、2013年度以降の推移を見ると、「晴」と答えた人の割合は最低で、逆に「雨」や「嵐」の回答割合は最も高くなっている(図表4)。大阪の新入社員の見通しは東京や名古屋と比べると二極化しているが、日本の先行きを悲観的に見る人の割合は徐々に高まっている。

図表 3. 10年後の日本の状態を天気で表すと？



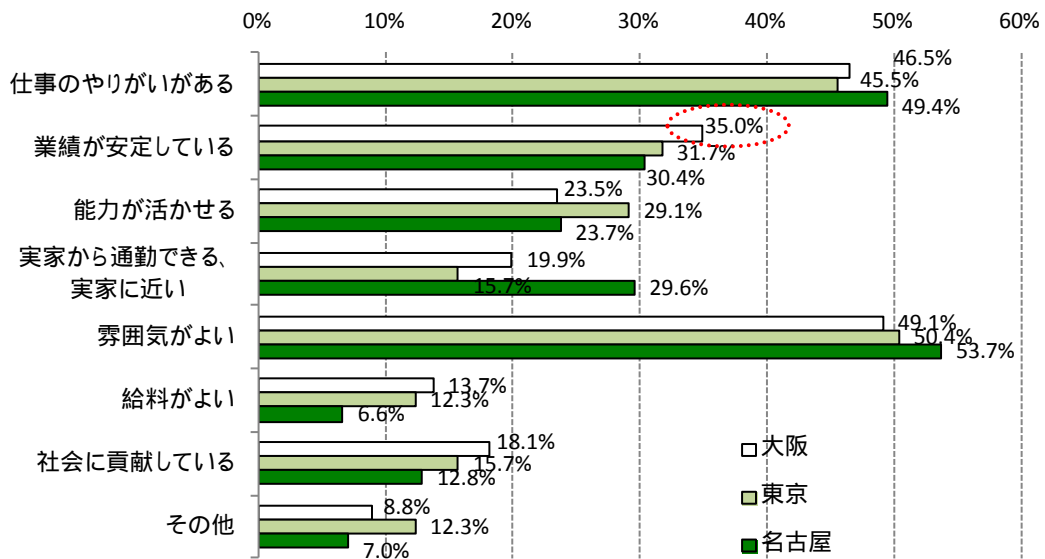
図表 4. 10年後の日本の状態を天気で表すと？(大阪地区推移)



大阪の男性は安定志向

男性の新入社員に就職活動の際に会社を選んだ基準を聞いたところ、東名阪ともに最も多く選ばれたのは「雰囲気がい」で、次いで「仕事のやりがいがある」、「業績が安定している」となった(図表5)。これらの中で、特に大阪では「業績が安定している」の回答割合が東京や名古屋と比べて高くなっている。

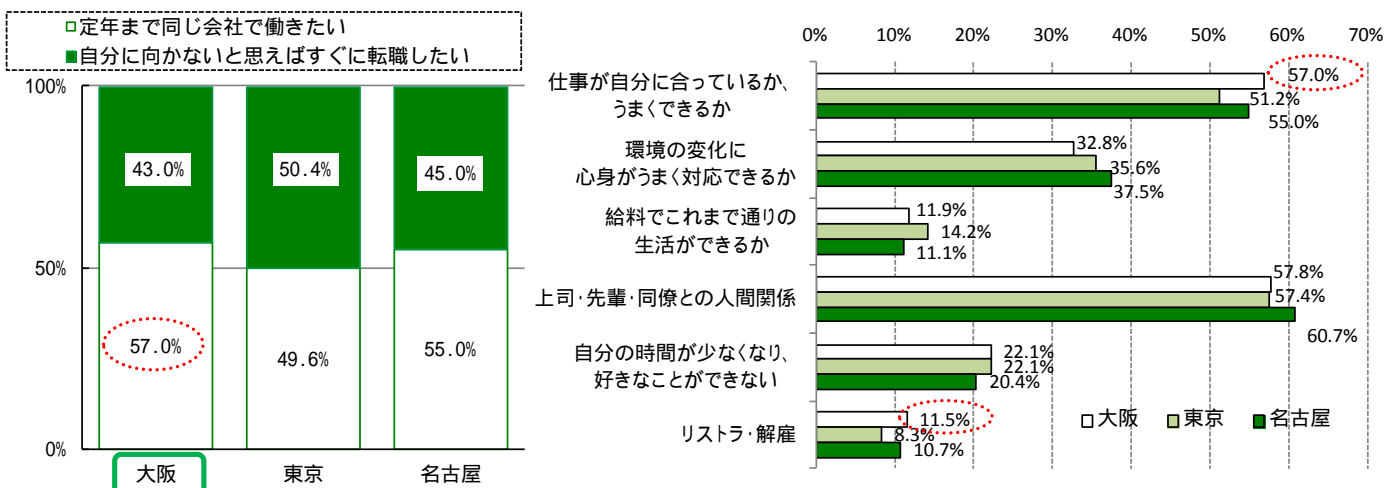
図表5.会社を選んだ基準(男性)



大阪の男性新入社員は比較的安定志向が強く、「定年まで同じ会社で働きたい」(57.0%)という回答が「自分に向かないと思えばすぐに転職したい」(43.0%)を上回っている(図表6左)。

また、東京や名古屋と比べて、「仕事が自分にあっているか、うまくできるか」気にしたり、「リストラ・解雇」の可能性に対して不安を抱いたりする傾向も強い(図表6右)。

図表6.就労意識、仕事・職場生活に対する不安(男性)

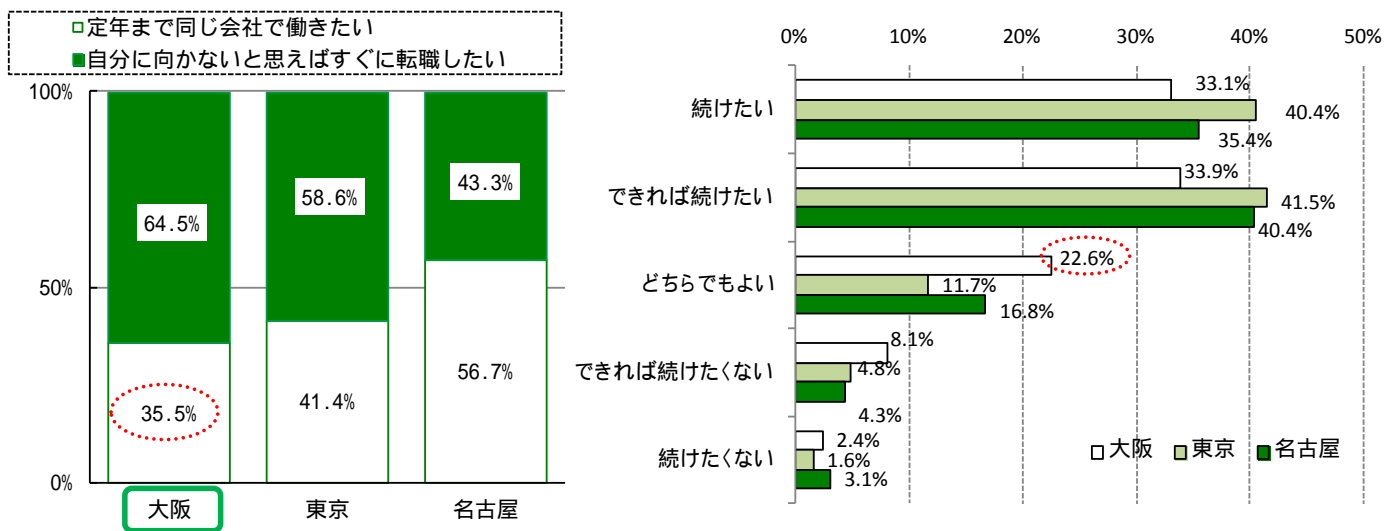


現実的な大阪の女性

女性の新入社員に「定年まで同じ会社で働きたい」か、「自分に向かないと思えばすぐに転職したい」かどちらに近いか聞いたところ、「自分に向かないと思えばすぐに転職したい」との回答が64.5%に上った(図表7左)。東京や名古屋と比べると、会社に対するこだわりはあまり強くない、自分に合う環境で働けることの方が大事と考えているようだ。

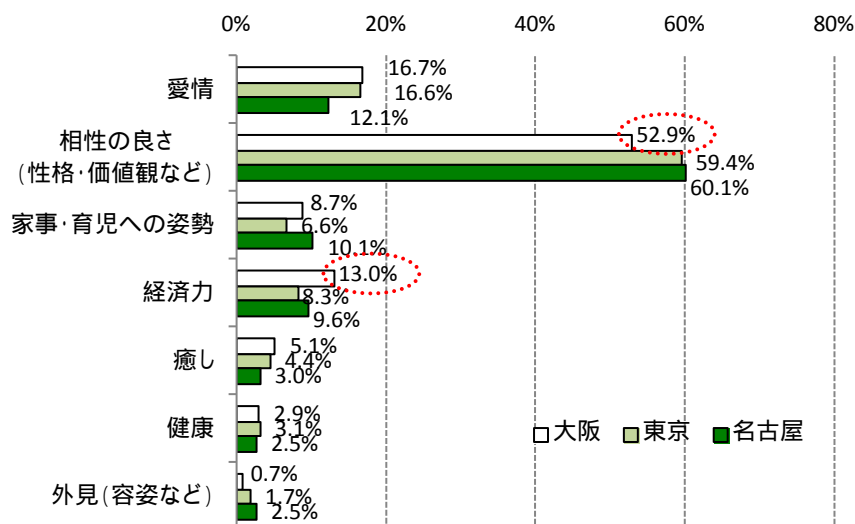
この傾向は結婚後も仕事を続けたいかという設問への回答にも表れており、東京や名古屋と比べて「どちらでもよい」の割合が高くなっている(図表7右)。会社に対するこだわりがない分、状況に合わせて柔軟に対応しようという考えの女性が比較的多いとみられる。

図表7. 就労意識、結婚後も仕事を続けたいか？(女性)



さらに大阪の女性新入社員に結婚相手に最も望むものを聞いたところ、東京や名古屋と同じく「相性の良さ」が最も多く選ばれた(図表8)。もっとも、その割合は東京や名古屋と比べて低く、代わりに大阪では「経済力」の回答割合が高くなっている。結婚相手を選ぶ際にも現実的な傾向があるようだ。

図表8. 結婚相手に最も望むもの(女性)

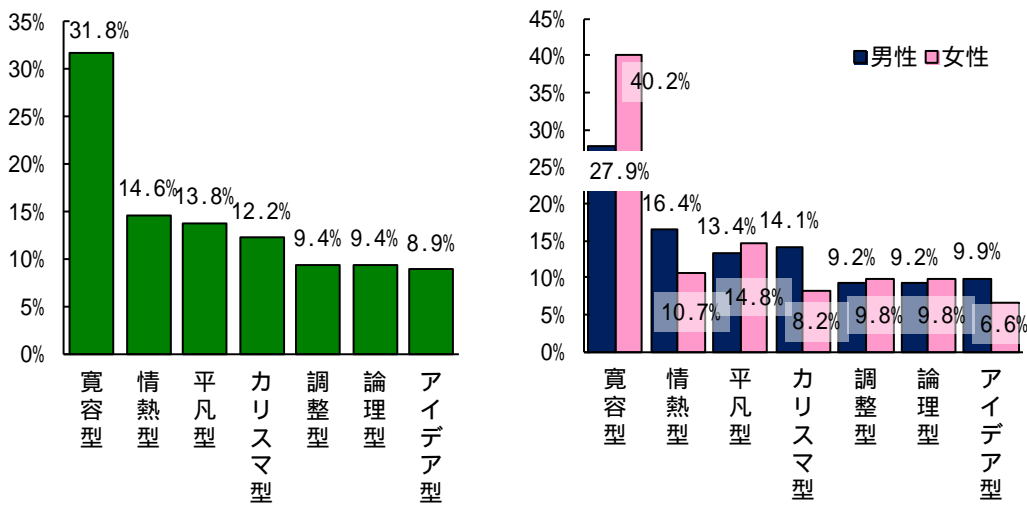


理想の上司は「寛容型」、動物に例えると「いぬ」が圧倒的

新入社員にとっての理想の上司を「寛容型」、「調整型」、「カリスマ型」、「アイデア型」、「論理型」、「平凡型」、「情熱型」の7種類から選んでもらった。その結果、最も選ばれたのは東京や名古屋と同様、「寛容型」となった（図表9）。

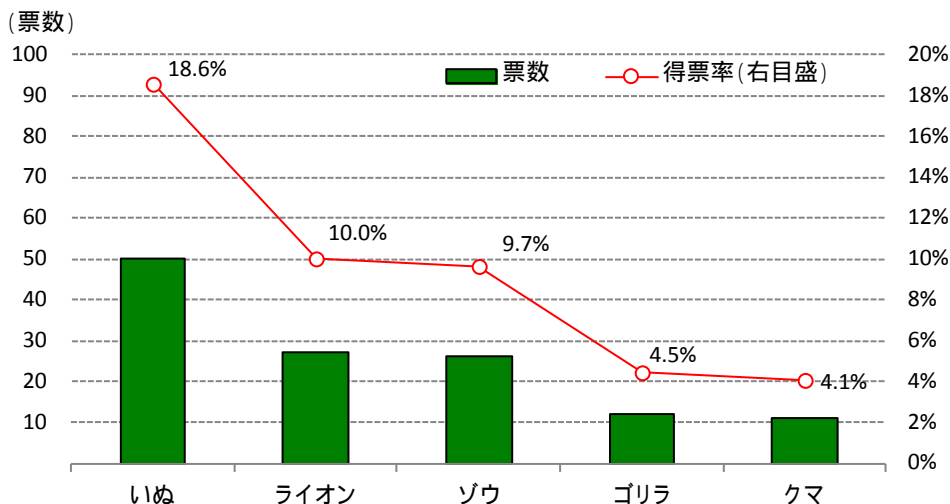
また、男女別では、1位は男女ともに「寛容型」であったが、2位以下には違いが見られた。男性からは「情熱型」や「カリスマ型」など、ある程度の厳しさを持って引っ張ってくれる様なリーダー的存在が比較的支持を集めているのに対し、女性からは「平凡型」の様なおく普通の上司が人気を集めている。

図表9.理想の上司



さらに、こうした理想の上司を動物に例えてもらったところ、1位は「いぬ」（得票率18.6%）であった（図表10）。その支持率は東京（11.9%）や名古屋（13.6%）を上回った。親しみやすく、相談しやすそうなイメージが「寛容型」の上司を好む大阪の新入社員の心を特につかんだようだ。

図表10.理想の上司を動物に例えると



(注)有効回答数は269。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。